

# 向こう 1 か月の天候の見通し

## 近畿地方（2 月 2 日～3 月 1 日）

大阪管区气象台

### 予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすく、向こう 1 か月の平均気温は高いでしょう。特に、期間のはじめはかなり高くなる見込みです。
- 日本海側では、向こう 1 か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、寒気の影響を受けにくく、向こう 1 か月の降雪量は少ないでしょう。

〔 1 月 25 日発表の 3 か月予報の 2 月の見通しに比べ、暖かい空気に覆われやすい予報に変わったため、高温の可能性が大きくなりました。 〕

### 1 か月の平均気温・降水量・日照時間・降雪量

		平均気温（1 か月）	降水量（1 か月）	日照時間（1 か月）	降雪量（1 か月）
近畿	日本海側	低 10 並 30 高 60% 高い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 50 並 40 多 10% 少ない見込み
	太平洋側		少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み	予報しません


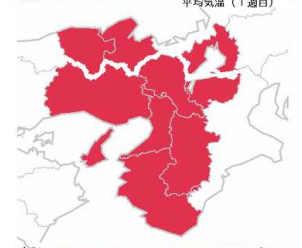





### 週別の天候

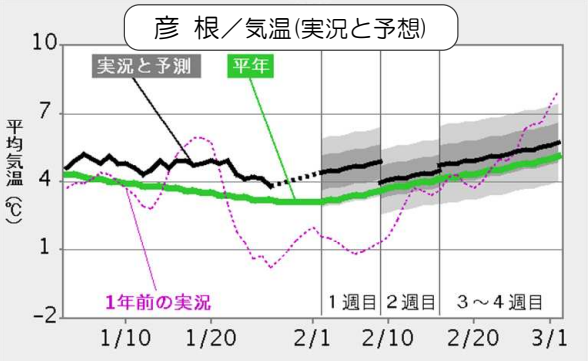
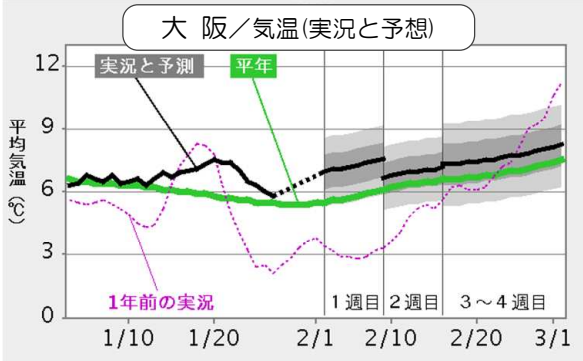
(1 週目) 2/2~8	(2 週目) 2/9~15	(3~4 週目) 2/16~3/1
高気圧に覆われて晴れる日もありますが、気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、期間の前半は雨や雪の降る日が多い見込みです。	日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。 太平洋側では、低気圧の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。	日本海側では、寒気の影響を受けにくく、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。 太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

明日から 1 週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/jp/week/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。  
確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

週別の平均気温

	平均気温（1週目） 2/2～8	平均気温（2週目） 2/9～15	平均気温（3～4週目） 2/16～3/1
近畿地方	低 10 並 20 高 70% 高い見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並が高い見込み	低 20 並 30 高 50% 高い見込み
 数値は予想される 出現確率です	 平均気温（1週目）	 平均気温（2週目）	 平均気温（3～4週目）
	 低い確率 (%) 以上 50 40 40 50 高い確率 (%)	 低い確率 (%) 以上 50 40 40 50 高い確率 (%)	 低い確率 (%) 以上 50 40 40 50 高い確率 (%)



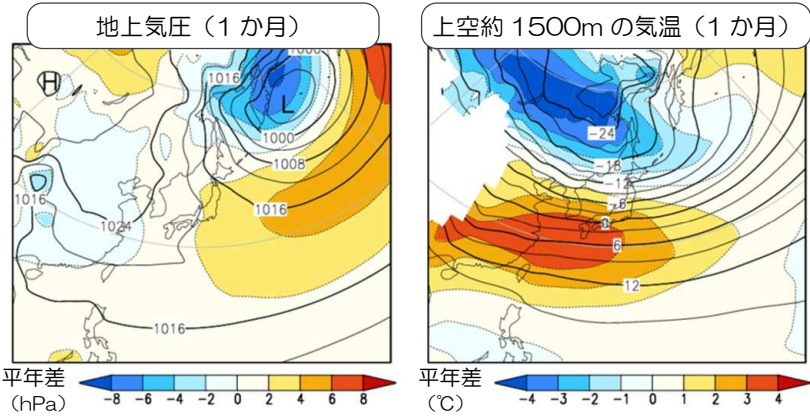
ほかの地点の気温（実況と予想）グラフは、  
 気象庁ホームページ  
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/longfest/tjikeiretu/index.php>  
 で公開しています。

↑ 予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを黒い太線で表しています。信頼の程度が40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。今年、昨年の実況は7日平均気温です。

数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧（左図）は、カムチャツカ半島付近を中心に低く、アリューシャン低気圧は北日本に近い西側を中心に強い予測となっています。一方、本州の南東海上を中心に高く、東日本以西では西高東低の冬型の気圧配置が弱い予測となっています。

上空約1500mの気温（右図）は、シベリアから北日本付近で低い一方、東シナ海を中心に西・東日本にかけて高い予測となっています。



季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のパラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

最近 1 週間の天候経過（実況）

1/24~30

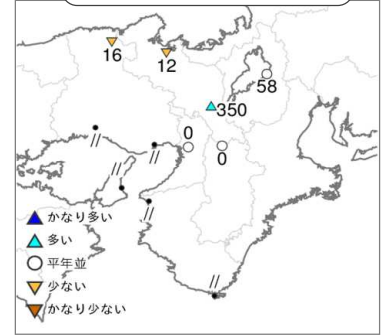
日本海側では、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多くなりました。

太平洋側では、期間の中頃は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

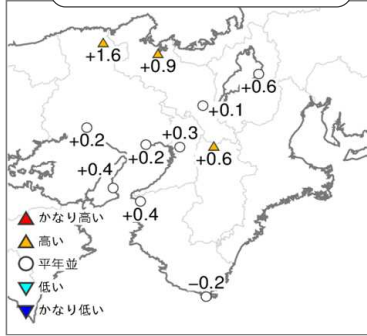
また、26 日は冬型の気圧配置が強まった影響で、日本海側では荒れた天気や大雪となった所があり、太平洋側の平地でも積雪となった所がありました。

1 週間の平均気温は、暖かい空気に覆われた影響で平年に比べ高くなり、日本海側での 1 週間の降雪量は、この時期としては少なくなりました。

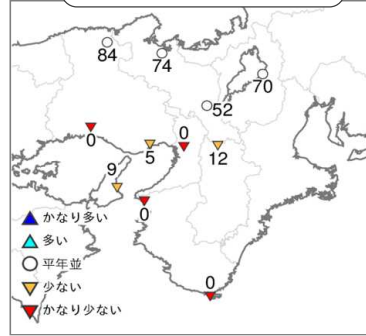
降雪量平年比 (%)



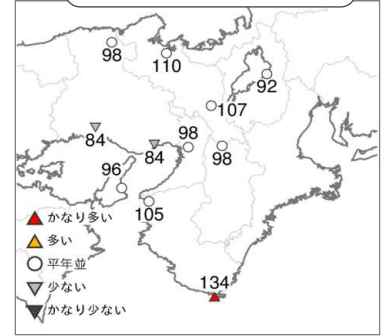
平均気温平年差 (°C)



降水量平年比 (%)



日照時間平年比 (%)



(実況) 1/24~30		平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比	降雪量平年比
近畿	日本海側	+0.5°C (高い)	76% (平年並)	100% (平年並)	29% (少ない)
	太平洋側		10% (少ない)	101% (平年並)	—

参考データ

● 平年並の範囲

	平均気温 (1 か月)	平均気温 (1 週目)	平均気温 (2 週目)	平均気温 (3-4 週目)
近畿地方	平年差: -0.5~+0.4°C	平年差: -0.6~+0.5°C	平年差: -0.7~+0.8°C	平年差: -0.9~+0.6°C
彦根	3.6~4.4°C	2.8~3.9°C	3.2~4.5°C	3.9~5.1°C
大阪	6.1~7.0°C	5.1~6.4°C	5.6~7.2°C	6.1~7.6°C

	降水量 (1 か月)	日照時間 (1 か月)	降雪量 (1 か月)
近畿日本海側	平年比: 85~111%	平年比: 91~104%	平年比: 56~118%
近畿太平洋側	平年比: 68~105%	平年比: 96~106%	—
彦根	75.8~116.1mm	102.6~120.1 時間	15~40cm
大阪	41.1~65.2mm	127.2~142.8 時間	—

「平年並」の範囲は、同時期の過去 30 年間 (1981-2010 年) の値から統計的に求めています。30 年間のデータの中で「高い (多い)」「平年並」「低い (少ない)」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30 年間の 30 個のデータのうち、値が高い (多い) 方から 11~20 番目となる 10 個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。また、実況の分布図にある「かなり高い (多い)」などは、高い (多い) 方から 3 番目までの値に相当します。

● 晴れ日数と降水日数の平年値

	1 か月		1 週目		2 週目		3~4 週目	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
彦根	12.0 日	12.2 日	2.7 日	3.0 日	2.9 日	3.0 日	6.5 日	6.2 日
大阪	16.1 日	6.3 日	4.1 日	1.2 日	4.0 日	1.4 日	8.0 日	3.7 日

「晴れ日数」は「日照時間が可照時間の 4.0% 以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量 1mm 以上」の日数です。この 2 つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

● 確率予報の解説 (ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています)

出現確率 (低い (少ない): 平年並: 高い (多い))	解説
高い (多い) 確率が 50% 以上 (20: 40: 40)	高い (多い) 見込み 平年並が高い (多い) 見込み
平年並の確率が 50% 以上 (40: 30: 30) (30: 40: 30) (30: 30: 40)	平年並の見込み ほぼ平年並の見込み
(40: 40: 20)	平年並か低い (少ない) 見込み
低い (少ない) 確率が 50% 以上	低い (少ない) 見込み